

ヨーロッパ州の指導にあたって ～国々の結びつきを主題に

●『学習指導要領解説』の抜粋

世界の諸地域について、次の①～⑥の州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究・解決するなどの活動を行う。州ごとに設ける主題は、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象とし、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

- ①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ
④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア

Ⅱ. ヨーロッパ州：＜主題例＞国家統合、文化の多様性に関わる課題などヨーロッパ州を大観する学習を踏まえて、例えば、ヨーロッパ連合（以下、EU という。）を対象に「EU はどのような経緯でその構成国を変化させてきたのか」、「EU の構成国内で、なぜ分離や独立などの動きが見られるのか」などといった問いを立て、前者の場合、EU の空間的広がり、EU 統合の歴史的背景、EU 統合がもたらす成果と課題などを地域の人々の生活と関連付けて多面的・多角的に考察して、国家間の結びつきに関わる一般的課題と EU における地域特有の課題とを捉える。

●指導上の留意点

ヨーロッパ州を扱う際の学習テーマは「国々の結びつき」である。まず、おおまかにヨーロッパの位置と広がりについて確認させる。ユーラシア大陸の西部に位置し、北極海に面した冷帯の地域から、地中海に面する温帯の地域まで、狭い地域ではあるものの、多様な気候環境の下で、ヨーロッパは多くの人口を抱えてきた。民族・文化の多様性と、一方で共通する文化的な側面としてのキリスト教の存在に気づかせたい。次に、小国の多いヨーロッパの国々が第二次世界大戦後、アメリカ合衆国などの大国と経済的な面から対抗する必要性から、ヨーロッパ共同体（EC）がつくられ、それはさらに経済だけでなく政治的な統合へと進み、ヨーロッパ連合（EU）に進展してきた。この進展は、共通通貨であるユーロ導入による流通圏の拡大や、多様な産業（農業・工業）の地域展開、各国間の電力のやり取り、労働者を含めた人々の移動などを引き起こしてきた。こうした変化について、各国の相互関係を意識しながらも、EU としてのまとまりという側面から見ていきたい。また、環境対策にしても、産業革命を経験してきたヨーロッパで進んでいる再生可能エネルギーによる発電の導入や、電力買い取りの問題など、「国々の結びつき」の視点から考えさせるようにしたい。

●ワークシートの単元構成 ＜想定する時間数：全体で 6 時間＞

	時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ
主題 … 国々の 結びつき	1	ヨーロッパ州をながめて	ヨーロッパの位置と広がり 地域区分、主な国々の名称と位置	ユーラシア大陸の西端、地中海 高緯度と気候	p.14
	2	ヨーロッパ州の民族と文化	キリスト教の社会 多様な民族と文化	キリスト教、多様な言語と民族 移民、外国人労働者	p.15
	3	ヨーロッパ州の地域統合	ヨーロッパ連合の成り立ち ヨーロッパ連合の拡大と課題	ヨーロッパ連合 ユーロ、地域格差	p.16
	4	ヨーロッパ州の産業	ヨーロッパの農業 工業と地域間の格差	農業の特徴、自給率 工業発達	p.17
	5	ヨーロッパ州にみる環境対策	国境を越える環境問題 環境問題への意識と対策	酸性雨と地球温暖化 具体的な政策、再生可能なエネルギー	p.18
	6	ヨーロッパ州のまとめ	大きくとらえたヨーロッパ 国々の結びつきからみたヨーロッパ	白地図上に主な地名や語句を整理する 追究したテーマについて文章でまとめる	p.19

ヨーロッパ州 ①

ヨーロッパ州を ながめて

●学習のねらい●

地図帳を使って、ヨーロッパ州の位置と広がり、地形や気候の様子、また、どのような国々があるのか、ながめてみよう。

ヨーロッパ州は、ユーラシア大陸西端^{せいたん}の半島のような場所に位置しています。その南北の広がりについては、北海道から沖縄^{おきなわ}までとほぼ同じくらいです。北は北極海、南は地中海、西は大西洋に面し、東はウラル山脈などを境にアジア州と接しています。ヨーロッパ南部には、ピレネー山脈、アルプス山脈、カルパチア山脈などの山々が東西に連なり、山脈の北には、フランス平原、北ドイツ平原などの広い平野が広がっています。北ヨーロッパは、かつて広く氷河によっておおわれていたため、フィヨルドなどの独特の氷河地形が見られます。

気候については、ヨーロッパ南部は、降水量が少なく夏は乾燥^{かんそう}する地中海性気

候、ヨーロッパ北西部は、広い地域が西岸海洋性気候にあたります。内陸のヨーロッパ北東部は、冷帯の地域が広がっているため冬は気温がかなり下がり、降水量も西部に比べて少なくなります。

ヨーロッパ州には40以上の国々がありますが、面積・人口についてはロシアを除き、日本より小さな国々が多数を占めています。特に、世界各地に植民地をもち、18世紀に産業革命が起きたイギリスをはじめとする北西ヨーロッパのフランス、ドイツなどの先進国は、世界の歴史に大きな影響^{えいきょう}をおよぼしてきました。一方、東ヨーロッパは、長らく社会主義国として歴史的共通性を保ってきました。

課題 1 右の地図の①～⑤にあてはまる国名とその首都名を下に記入しよう。

	国 名	首都名
①		
②		
③		
④		
⑤		

課題 2 東京を中心に半径2,000kmの円を描くと、日本列島がほぼ収まります。地図中のベルギーの首都、ブリュッセルを中心に、地図に半径2,000kmの円を描いてみよう。

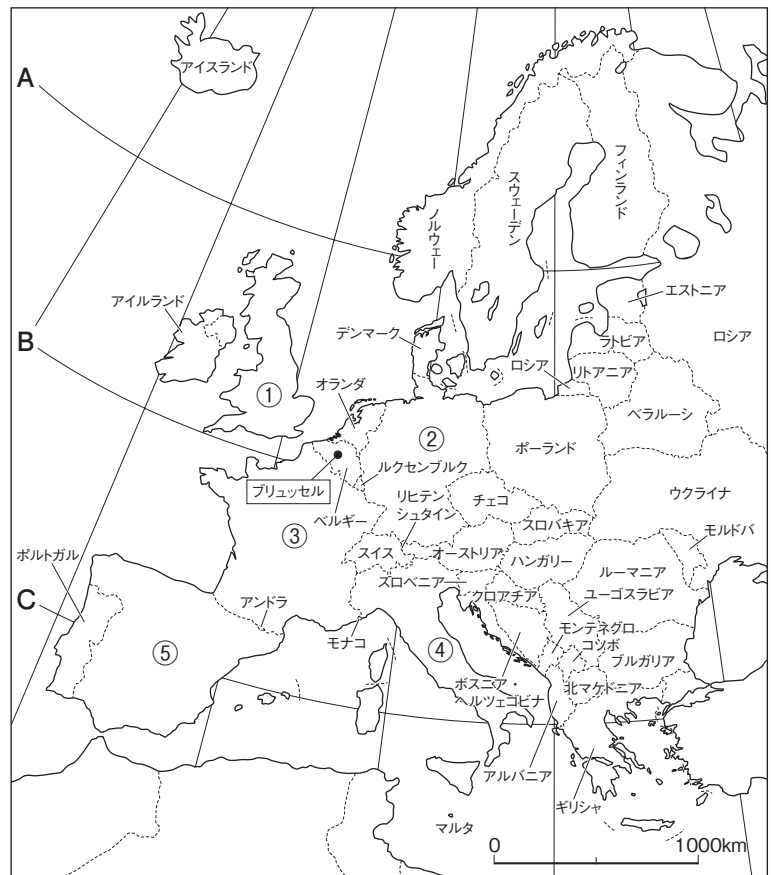
課題 3 地図中の国々を次のように区分して、それぞれを着色してみよう。

北ヨーロッパ：青色 西ヨーロッパ：緑色
南ヨーロッパ：黄色 東ヨーロッパ：茶色

課題 4 地図中のA～Cのうち、北緯40度の緯線を赤色でなぞってみよう。

課題 5 日本で、ローマとほぼ同じ緯度にある県庁所在地を挙げてみよう。 ()

課題 6 教科書を参考に、東京より高い緯度にあるロンドンの冬の気温が、東京とあまり差がない理由についてまとめてみよう。



ヨーロッパ州 ③

ヨーロッパ州の地域統合

●学習のねらい●

ヨーロッパ連合の成り立ちと拡大、ユーロが流通している国を確認しよう。また、EU内の地域格差にも注目しよう。

第二次世界大戦後、植民地のほとんどが独立し、アメリカ合衆国やソビエト連邦（現在のロシア連邦）の国力が大きくなる中で、西ヨーロッパ諸国の世界に対する影響力は低下していきました。そんな中、1958年、西ヨーロッパの6か国は、石炭や鉄鉱石などを共同で利用し、製品や資金、労働力の移動を自由化することを目的としたヨーロッパ経済共同体（EEC）を結成し、アメリカ合衆国などの大國に対抗しようとしていました。その後、EECは1967年にヨーロッパ共同体（EC）に発展し、さらに1993年には政治・経済的な結びつきの強化を目的とし

てヨーロッパ連合（EU）へ移行しました。2002年には、EUの多くの国で単一通貨であるユーロの流通がはじまり、仕事や観光を目的とするEU内部の人の移動も活発化しました。2004年以降は、東ヨーロッパの国々も加盟し、現在のEU加盟国はヨーロッパの大半を占めるまでにになりました。しかし、所得水準の低い東ヨーロッパの国々がEUに加盟したのにもない、EU内部の経済的な地域格差が大きな問題となっています。東ヨーロッパから西ヨーロッパに出稼ぎに行く人々も増えています。2020年にはイギリスがEUから離脱しました。

課題 1 地図帳などを参考に、右の地図Ⅰ中のEU加盟国の範囲を赤い線で囲んでみよう。

課題 2 EU内のユーロ導入国は下の19か国です。右の地図Ⅰ中に青色で着色してみよう。

オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、フランス、イタリア、アイルランド、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、フィンランド、オーストリア、スロベニア、キプロス、マルタ、スロバキア、エストニア、ラトビア、リトアニア
(2021年4月現在)

課題 3 次の表は、EU各国の一人当たりの国民総所得（2018年、単位はドル）を示しています。表の下にある①・②の作業をしてみよう。

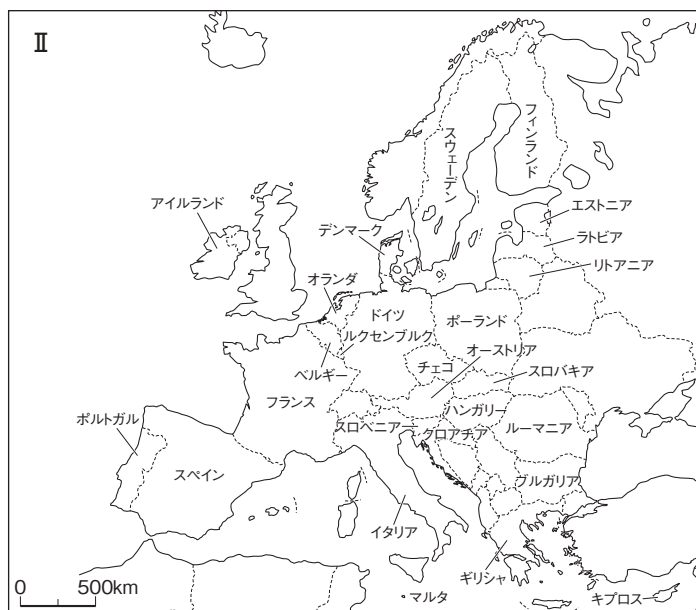
国名	一人当たり国民総所得	国名	一人当たり国民総所得
アイルランド	62,295	ドイツ	48,843
イタリア	34,762	ハンガリー	15,612
エストニア	22,806	フィンランド	50,301
オーストリア	51,090	フランス	42,289
オランダ	54,115	ブルガリア	9,475
キプロス	27,940	ベルギー	47,597
ギリシャ	20,604	ポーランド	14,791
クロアチア	14,023	ポルトガル	22,961
スウェーデン	56,632	マルタ	30,300
スペイン	30,474	ラトビア	17,544
スロバキア	19,120	リトアニア	18,470
スロベニア	25,595	ルーマニア	12,026
チェコ	21,711	ルクセンブルク	74,768
デンマーク	62,659		

(『世界国勢図会 2020/21年版』より)

① EU発足時の加盟国を表の中から選び、国名の下に赤色の線を引いてみよう。

② 21世紀になってから、EUに加盟した国を表の中から選び、国名の下に青色の線を引いてみよう。

課題 4 上の表の数値を参考にして、右の地図Ⅱを、地図中の凡例にしたがって着色してみよう。



【凡例】
一人当たりの国民総所得
 30,000ドル以上は赤色
 20,000ドル以上30,000ドル未満は黄色
 20,000ドル未満は青色

ヨーロッパ州 ④

ヨーロッパ州の産業

●学習のねらい●

ヨーロッパ州の産業の様子をながめてみよう。農業は地域区分と食料自給率、工業は発展度合いの変化や地域間格差に注目しよう。

ヨーロッパの農業の特色は、畑作と家畜の飼育が組み合わされていることです。伝統的に南部では、地中海式農業が行われてきましたが、現在では単一の作物を栽培、出荷する農家が多くなっています。北部では畑作と家畜飼育の混合農業が、北海沿岸やアルプス山脈などでは酪農が、大都市の近くでは園芸農業が盛んです。農業の盛んなフランスでは、多くの農作物は自給されています。

ヨーロッパでは、産業革命の後、石炭や鉄鉱石が豊富な内陸部で工業が発展しました。しかし、第二次世界大戦後、海外から石油や鉄鉱石が輸入されるようになると、工業の中心地は、オランダのロッテルダムやイタリアのジェノバなどの

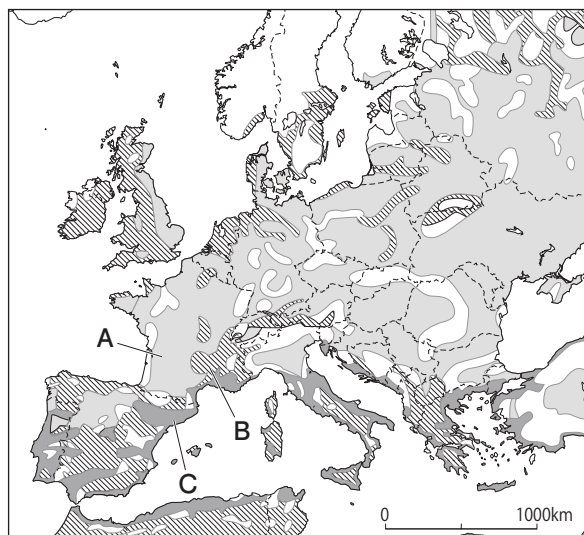
沿岸部に移りました。1980年代に入ると、自動車や航空機、電子機器などの新しい工業が発展し、大都市周辺だけでなく、ヨーロッパの南部にも、多くの工場が進出しました。航空機は、EU加盟国が共同して設立した会社が各国で部品を生産し、フランスのトゥールーズなどで最終の組み立てを行っています。

また、チェコやハンガリーなどの東ヨーロッパの国々には、安い労働力を求めて、アメリカ合衆国や日本などからも工場が進出しています。しかし、現在でも東ヨーロッパの国々の工業出荷額は少なく、西ヨーロッパとの間に大きな地域間格差があります。

課題 1 下の表は、ヨーロッパ諸国と日本における品目別の食料自給率です（2017年、数値は％）。この中で、100％をこえている欄を赤い線で囲んでみよう。また、右の地図のA～Cの地域で盛んな農業は何か、答えよう。

	穀 類	野菜類	果実類	肉 類	牛乳・乳製品
フランス	170	72	62	100	118
ドイツ	112	46	27	112	118
イタリア	63	146	108	74	81
オランダ	9	328	38	228	203
スペイン	53	191	137	140	84
スウェーデン	132	37	5	71	91
イギリス	94	46	10	72	90
日 本	28	79	40	52	60

（農林水産省『食料需給表』より）



A () B ()
C ()

課題 2 オランダで盛んな農業は何でしょうか。地図帳などを参考に二つ挙げよう。 ()
()

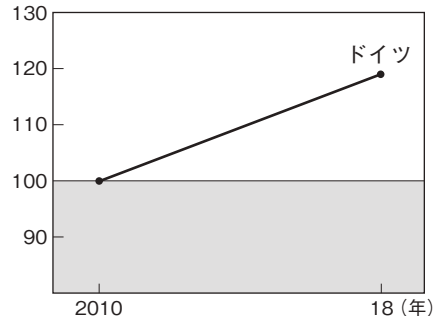
課題 3 次の表は、工業の発展度合いを示す「一人当たりの工業付加価値額」（2018年、ドル）と、それが一定期間にどのくらい成長したかを、2010年を100として比べた「指数」で表したものです。前者についてはドイツを例にほかの5か国のグラフを完成させよう。後者についてはドイツを例に、チェコのグラフを描き入れよう。

■一人当たりの工業付加価値額

	一人当たりの工業付加価値額	5,000	10,000	15,000	指 数 (2010年=100)
ドイツ	13,048	例（赤で着色）			119
イギリス	7,464				107
チェコ	7,400				114
フランス	7,324				101
ポーランド	4,423				120
ギリシャ	3,166				80

（『データブック・オブ・ザ・ワールド 2021 年版』より）

■2010年を100とした指数



ヨーロッパ州 ⑤

ヨーロッパ州に みる環境対策

●学習のねらい●

ヨーロッパ州における環境問題への意識の高まりの中で、具体的な環境対策や工夫について学習し、持続可能な社会づくりについて考えてみよう。

1950年代よりヨーロッパでは、広い範囲で森林の樹木が枯れ、湖や河川の水質汚染が見られるようになりました。その原因として、酸性雨が問題になりました。酸性雨は、工場や自動車から排出された有害物質が原因となり、その被害は国境を越えたものとなるため、国際問題にもなりました。

こうした背景もあり、ヨーロッパでは環境問題に対する人々の関心は高く、地球温暖化が進むとともに、二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスを削減する対策が広まりました。例えば、オランダでは自動車の利用を減らし、環境を整備して自転車の利用を増やす工夫や、廃棄物を減らす努力が続けられています。

また発電方式についてもCO₂排出量が多い点から、石炭・石油などの化石燃料を使う火力発電より、CO₂排出量が少ないとされる原子力発電が各国で推進されてきました。しかし、1986年にチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故が発生すると、その安全性について関心が高まりました。現在、ヨーロッパ各国ではCO₂排出量をおさえるために、風力や太陽光、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入が進んでいます。例えば、デンマークでは風力やバイオマスなど、スペインでは風力や太陽光・太陽熱、水力などによる発電の導入が進みました。

一方で、原子力発電については、各国の対応に違いがあります。

課題 1 右のグラフは、ヨーロッパの主な国と

日本の発電方式を表したものです。火力、水力、原子力の割合が最も高い国をグラフから読み取り、答えよう。

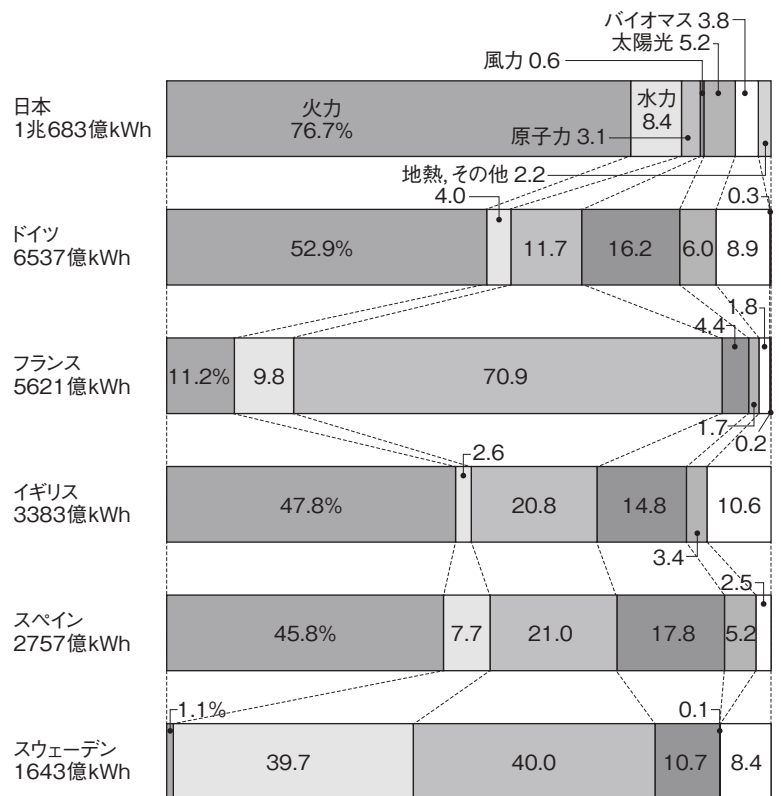
- ・火力 ()
- ・水力 ()
- ・原子力 ()

課題 2 水力を含む再生可能エネルギーの割合が最も高い国をグラフから答えよう。

()

課題 3 原子力発電の安全性への関心が高まるきっかけとなった、1986年に爆発事故を起こした原子力発電所名を答えよう。

() 原子力発電所



(2017年 IEA 資料ほか)

課題 4 火力発電の欠点についてまとめよう。

課題 5 ヨーロッパ州の多くの国で行われている、再生可能エネルギーの拡大のための工夫を答えよう。

ヨーロッパ州 ⑥

ヨーロッパ州の まとめ

●学習のねらい●

ヨーロッパ州について学習
してきたことがらを、地図
で確認しながらまとめよう。

ヨーロッパ州の位置や広がり、地形、
気候、民族と文化、EUの統合、産業、
環境問題などについて学習してきました。
現在、EUにはヨーロッパ州の27か
国が加盟し、人口は4.4億人ほどとなっ
ています。EUの人口は、中国にはおよ
びませんが、アメリカ合衆国（約3.3億
人）をこえています。国内総生産（GDP）
もアメリカ合衆国が約21兆ドルである
のに対し、EUは約16兆ドル、自動車生
産台数では1,575万台（中国は2,572万台、
アメリカ合衆国は1,088万台）、穀物生産
量では2.7億t（中国は6.1億t、アメリカ
合衆国は4.7億t）となっています。

また、EU各国の結びつきも強くなっ
ています。例えば、ドイツの自動車メー

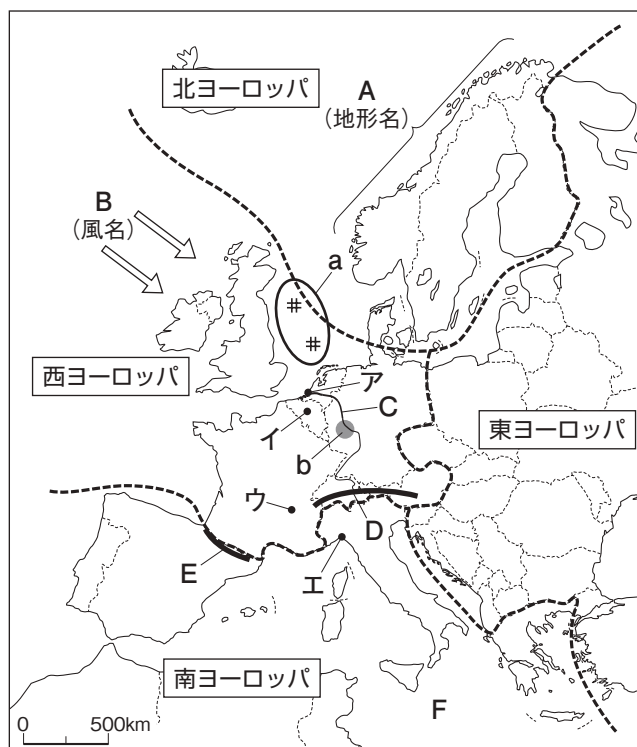
カーは東・中央ヨーロッパで工場を展開
したり、航空機を4か国が共同生産する
などしています。また、共通の農業政策
によって農業を保護し、EU域内の食料
自給率を高く維持しようとしています。
温室効果ガスについても、パリ協定にお
いて、EUは2030年までに2013年比で
24%削減の目標を掲げています。

このように、ヨーロッパの国々はEU
にまとまることでアメリカ合衆国などの
大国に対抗し、産業を育成してきました。
地球温暖化への取り組みも、EUとして
まとまって進められています。しかし、
EUの拡大は域内の地域間格差を生み出
しました。これが原因となって、労働力
や資本の移動が生じています。

◆人口：2020年、GDP・穀物生産量：2018年、自動車生産台数：2019年の数値。

課題 1 下の地図に示された、地形と自然A～F、油田aと工業地帯b、都市ア～エ、ヨーロッパを代表する各言語とキリスト教の宗派を、下の解答欄に記入しよう。

A		B		風	
C		川	D		山脈
E		山脈	F		海
a		油田	b		工業地帯
ア		イ			
ウ		エ			
北ヨーロッパ			系言語	宗派：	
西ヨーロッパ			系言語	宗派：	
東ヨーロッパ			系言語	宗派：	
南ヨーロッパ			系言語	宗派：	



課題 2 ヨーロッパ州に関して興味をもったテーマについて、100文字前後でまとめてみよう。